

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人東京芸術大学

1 全体評価

東京芸術大学は、我が国唯一の国立総合芸術大学として、創立以来の自由と創造の精神を尊重し、教育研究と社会連携活動の推進を通じて我が国の芸術文化の発展について指導的役割を果たすことを使命としている。第3期中期目標期間においては、世界最高峰の芸術大学への飛躍を目指し、国際舞台で活躍できる卓越した芸術家・研究者を育成することや、伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進すること等を基本的な目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、オンラインを活用した新しい教育手法による国際共同プログラムを展開するとともに、大学の様々なコンテンツの発表、配信を行うための新たなプラットフォーム「東京藝大デジタルツイン」を構築するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- オンラインを活用した国際共同授業等の展開・拡充により、グローバルな教育研究環境の構築を促進しており、オンラインプラットフォームを活用したパリ国立高等音楽院即興科との合同の即興創造講座、南カリフォルニア大学とのオンラインを活用した双方向の教育プログラム、国立台北芸術大学芸術跨域研究科との共同による「Museum Without Border」をテーマにした芸術文化交流プログラム等を実施している。こうした取組により、令和2年度には374名の学生が多様な形で国際交流に参加している。（ユニット「海外一線級アーティストユニット誘致を基軸とした『グローバル展開戦略』」に関する取組）
- 「バーチャル藝祭」を開催し、様々なパフォーマンス等を生配信する「バーチャルストリート」、著名人をゲストに迎えた特別対談やトークショー、演奏会や展覧会等のオンライン発信、公式グッズの販売等、様々な企画・コンテンツをウェブサイト上で展開しており、8万名以上の来訪者を集めている。（ユニット「マネジメント人材の獲得・登用や人事・給与システム改革等による大学経営力強化戦略」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供	○					
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ 「若手芸術家支援基金」の創設

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴い、展覧会や演奏会の中止を余儀なくされ、作品発表の場や機会を失い、大きな影響を受けている東京芸術大学出身の若手芸術家に対して、芸術活動の持続化を支援するための「若手芸術家支援基金」を創設し、若手芸術家支援のためのプロジェクトを実施している。同基金は、大学の自己財源に加

えて、一般企業からの協賛金や基金への寄附のほか、クラウドファンディングで集まった支援金を原資としている。

### (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、特筆すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について特筆される。

#### ○ 「東京藝大デジタルツイン」による新しい形での教育研究成果の発信

ICTを活用した新しい表現やコミュニケーションを追求し、世界中の人々に芸術が共有されるより豊かな日常を届けるとともに、次世代を担う芸術の若き才能たちに、活躍と鍛錬の場を与えることを目的に、大学が生み出す様々なコンテンツの発表、配信を行うための新たなプラットフォームとして「東京藝大デジタルツイン」を令和3年2月にオープンしている。「デジタルツイン」とは、本物の空間や物体を測定・データ化することでデジタル複製し、サイバー空間上に再現したものを指し、シミュレーション解析等のほか、様々な活動や環境の設営、新たな表現やコミュニケーションを可能とするものであり、ウィズコロナ・アフターコロナを踏まえた新しい教育研究・学生支援及び社会とのコミュニケーションの場としての活用が期待される。

### (4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等及び安全管理 ②安全管理 ③法令遵守

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ オンラインを活用した新しい教育手法による国際共同プログラムの展開

令和元年度に大学院映像研究科に創設したゲームコースでは、これまでの取組の成果を踏まえ、COIL (Collaborative Online International Learning) 型教育プログラムを導入し、南カリフォルニア大学とのオンラインを活用した双方向の教育手法により、共同授業やワークショップ、遠隔でのゲーム作品の共同制作が行われており、一部の授業については他研究科の大学院生や学部生の参加も認めるなど、全学的に取り組まれている。

### ○ 「上野トイレミュージアム」のオープン

上野公園エリアの魅力向上の一環として、大学から東京都への提案を契機として、令和2年9月に公園内に「上野トイレミュージアム」をオープンしている。同施設は、学生により企画されたものであり、各トイレブースにテーマとなる動物が設定され、それぞれの動物とその生育環境が壁面のタイルや手摺、流水音等で表現されている。設計・監理については大学院美術研究科建築専攻の研究室が行い、作品制作については大学院美術研究科の建築・陶芸・鋳金・デザイン・絵画の各専攻及び大学院音楽研究科と音楽学部の学生有志により行われている。

### ○ COI拠点での芸術と科学技術を結び付ける研究開発と社会実装の実施

平成27年度より実施している産学連携事業「センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム「感動」を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション」において、令和2年度はコロナ禍を踏まえた研究開発・社会実装を実施しており、デジタル技術の活用を含め、ソーシャルディスタンスの確保やロケーションフリーを実現する新たな展示・発表手法を導入した「スーパークローン文化財展」を開催している。

### ○ 芸術資源保存修復研究センターの創設

文化財及び芸術資源の保存、修復及び活用の調査・研究や、全国の大学の教員等の共同利用に供することを目的に「芸術資源保存修復研究センター」を創設しており、災害による文化財の被害増加への対応、文化財保護法の改正に基づく文化財の活用促進、音楽・映像・デジタルアート等の保存技術が未確立な芸術作品の保存修復方法に係る研究開発等を実施するため、異分野融合・横断型の研究拠点として、芸術資源の保存・修復ネットワークの構築・強化を進めている。